

5. 極早生ウンシュウミカン「広島果研7号」、カンキツ新品種「広島果研11号」および「安芸の輝き」を許諾契約

1. 背景とねらい

カンキツ類は 本県の基幹作物であるため、農業技術センターでは平成 10 年度から、カンキツ産地の活性化を狙った県独自性の高いカンキツ類（マンダリンタイプ、ブンタンタイプ）の育成に取り組んでいる。

2. 成果の内容

- 1) 「広島果研7号」は、「今田早生」の珠心胚実生で、育成地広島においては9月下旬から出荷できる、減酸の早い極早生ウンシュウである。果実重は「今田早生」「日南一号」に比べて同等の87gである。糖度は9.7度で「今田早生」に比べて0.7度高く、クエン酸含量は0.4%程度少ないため食味良好で食べやすい（表1，図1）。
- 2) 「広島果研11号」は、「清見」×「サザンレッド」の交雑品種で、年内に出荷でき大果で減酸および食味のよいカンキツ新品種である。果実重は 200 g 程度，成熟期は 11 月下旬で，糖度は 11.2，クエン酸含量は 0.84%で，減酸が良好でじょうのうごと食べることができる（表2，図2）。
- 3) 「安芸の輝き」は、「不知火」の珠心胚実生で「不知火」より減酸が早いカンキツ新品種である。果実重は 250g 程度で，2月上旬の糖度は「不知火」に比べ 0.9 度低いが，クエン酸含量も 0.33%低く，1月下旬に食味良好となる（表3，図3）。
- 4) 「広島果研7号」と「広島果研11号」は，2006年7月26日付けで，「安芸の輝き」は2008年10月1日付けで，広島県果実協同組合連合会と許諾契約を結んだ。

3. 普及上の留意点

- 1) 増殖は，高接ぎで行うとウイルス・ウィロイドの感染の恐れがあるため，苗木により行う。
- 2) 「広島果研7号」は2005年3月23日，「広島果研11号」は同年10月24日に登録となり，「安芸の輝き」は2007年2月14日付けで出願し，現在出願公表中である。
- 3) 苗木，穂木の分譲は，許諾契約日から5年間，広島県内の生産者に限られる。

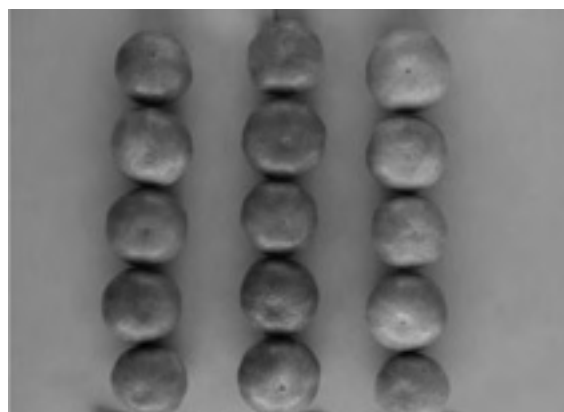
(果樹研究部)

4. 具体的データ

表1「広島果研7号」の果実特性

品種	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	クエン酸含量 (%)
広島果研7号	87	9.7	1.11
今田早生	89	9.0	1.57
日南1号	87	10.2	1.56

注) 1999年～2003年調査日 9月20日基準の平均値



日南1号

今田早生

広島果研7号

図1 極早生系統の比較

※表紙裏のカラー図参照

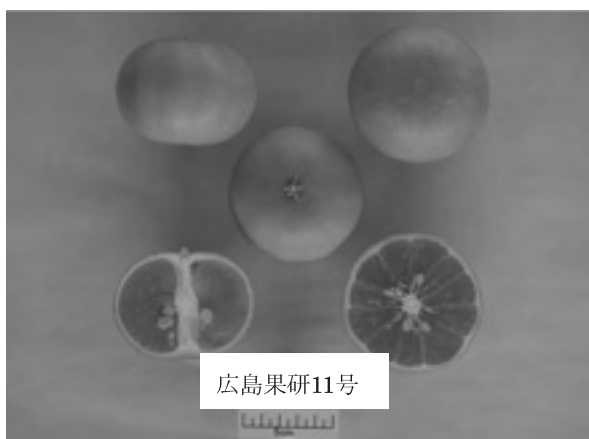


図2 広島果研11号

表2「広島果研11号」の果実特性

品種	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	クエン酸含量 (%)
広島果研11号	202	11.2	0.84
ミホコール	202	11.4	1.06
ありあけ	154	11.1	0.88

注) 1999年～2001年 調査日11月20日基準の平均値

表3「安芸の輝き」の果実特性

品種	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	クエン酸含量 (%)
安芸の輝き	259	13.4	1.22
不知火	225	14.3	1.55

注) 2001年～2003年 調査日 2月5日基準の平均値

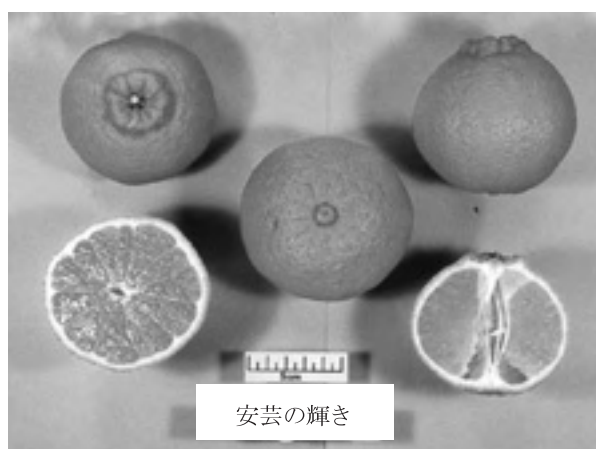


図3 安芸の輝き